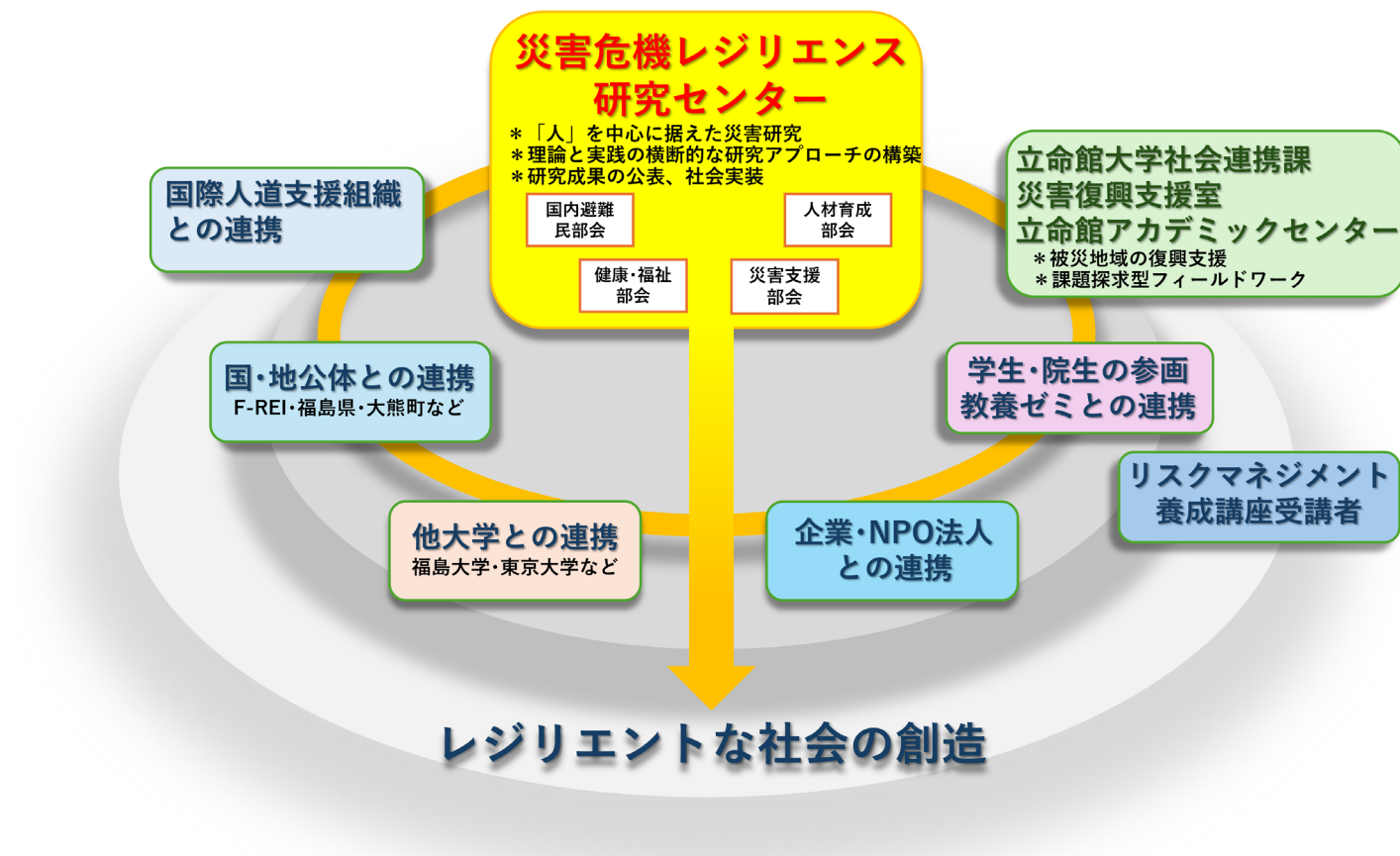


災害危機レジリエンス研究センター

Research Center for Crisis and Disaster Resilience



長期的なリスクにさらされた個人や家族の被害とその回復過程を中心に据えた災害研究の推進と実効的解決策を目指す

災害危機レジリエンス研究センターは、長期的なリスクにさらされた「個人」や「家族」に着目し、リスク軽減とリスク・レジリエンスの観点から問題構造を解明し、実効的解決策を見いだすため、2025年4月に設立されました。私たちの生活には、複合化・重層化する自然災害や人為災害、暴力、パンデミックのような感染症の蔓延、癌や難病など、さまざまな「リスク」が潜んでおり、それらは大きな社会問題となっています。本研究センターは、こうした社会問題に対し、「人」を中心に据えた研究および活動を展開することで、その解決に貢献することを目指します。

本研究センターは、当面の研究期間を5年間と定め、災害や

パンデミックを中心とした危機管理と、そこから人を中心にした再建（レジリエンス）を主たる研究テーマとして活動を行います。理論と実践を横断する特色ある研究センターとして、さらに5年間の期間延長を行い、研究領域を「災害」から「多様なリスク」へと発展させていく予定です。

「災害」および「多様なリスク」に対し、実効的な解決策を見いだすためには、多分野にわたる学際的ネットワーク構築と多様なアクター間の連携構築が不可欠になります。本研究センターは、この連携の重要性を深く認識し、本学に既存するシーズや学内組織との連携、学外の組織との連携、研究者間のネットワークの構築を図っていきます。具体的には、以下の3つの

点から取り組みを進めてまいります。

1点目は、本学が培ってきた災害研究および災害復興支援の成果を集約・評価し、長期的なリスクにさらされた個人や家族の被害とその回復過程に関する研究の推進です。2点目は、大規模災害時のNGO活動やボランティアに関する研究を体系的に進めつつ、災害時や復興支援に主体的に携われる人材育成の機会の提供です。3点目は、企業や事業所などにおける災害時のBCP（事業継続計画）の作成支援を通じた人材育成の機会の提供です。これら学問と実社会を横断するような取り組みを通じて、長期的なリスクにさらされた個人や家族のレジリエンスに関する研究の拠点形成の基盤整備を目指します。



原子力災害による小学校構内



津波被害の建物



廃炉作業をおこなう福島第一原子力発電所



避難指示区域内の高齢者施設の被害



学生による被災地フィールドワーク学習

4つの研究部会

①災害支援部会、②社会・保健部会、③国内避難民部会、④人材育成部会

シンポジウム・研究会の開催

今年度は、秋に災害危機レジリエンス研究センターのキックオフ・シンポジウムを開催予定です。
また、6月頃から研究会を順次進めてまいります。

主な研究テーマ

- 大規模災害による広域避難の実態
- レジリエンスと災害復興支援
- 災害復興と地域振興
- 高齢社会における地域ケアシステムの構築
- 国内避難民（IDPs）と国際支援



センター長：丹波 史紀（産業社会学部 教授）
主な研究拠点：衣笠キャンパス
お問い合わせ：立命館大学 研究部 衣笠リサーチオフィス内 災害危機レジリエンス研究センター事務局
TEL: 075-465-8473 FAX: 075-465-8245 〆: resili-c@st.ritsumei.ac.jp <https://www.ritsumei.ac.jp/research/resili>

